

# 平成28年度和歌山県文化奨励賞

つ ま き り よ う ぞ う  
妻木 良三

住 所 和歌山県有田郡湯浅町

出 身 地 和歌山県有田郡湯浅町

生 年 昭和49年

## ◎ 業績及び経歴

昭和49年湯浅町に生まれる。武蔵野美術大学造形学部油絵学科を卒業、同大学大学院造形研究科美術専攻油絵コースを修了。平成10年より鉛筆による絵画を描き始める。

平成18年に上野の森美術館が主催する平面作品の展覧会「VOCA展2006 現代美術の展望－新しい平面の作家たち」に選出される。平成19年には目黒区美術館でのグループ展「線の迷宮Ⅱ－鉛筆と黒鉛の旋律」に参加し、注目を集める。

東京での活動の後、平成20年に湯浅町に帰郷、実家の本勝寺で僧職を務めながら研鑽を重ねてきた。帰郷後は東京のみならず、和歌山でも個展を開催、グループ展にも参加するようになり、さらにドイツや香港などの海外の展覧会にも作品を出品し、その活動範囲を広げている。

平成26年に県立近代美術館で開催された展覧会「和歌山から始まる旅 観光する美術」では、展示された164点の作品の最後に氏の作品「境景Ⅱ」が飾られた。その幻想的な作品は、多くの鑑賞者を魅了した。

氏の作品は布の襞をイメージの源泉とするが、それは高度な技術を持って表現された独自のモノクロームの世界である。その描画内容は、山々や盆地などの風景を思わせるものから、皮膚や体内を思わせるようなものまで様々であるが、その作品からは、鉛筆の一本の線から育まれたモノクロームの表現の本質に触れることができ、高い評価を得ている。

近年は、鉛筆による絵画だけではなく、写真やコラージュといった新たな分野にも意欲的に取り組み、表現の領域を広げている。氏の精力的な制作活動は、今後もより一層の活躍が期待されている。

## ■現 在

画家

浄土真宗本願寺派本勝寺僧侶

## ◆主な表彰歴等

- 平成11年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業制作 三雲祥之助賞
- 平成13年 第6回ART公募2002審査員大賞
- 平成18年 「VOCA展2006 現代美術の展望－新しい平面の作家たち」選出